

優秀賞

気持ちは命をつなぐ

京都市立高倉小学校 4年 H・A

わたしはある日、お父さんの部屋でたくさんの手紙を見つけました。なんでしよう。手紙を見てみたいなと思いました。そしてお父さんに聞きました。

それは、お父さんの仕事で関わった赤ちゃんの家族からもらったものでした。よませてもらうと、命を助けてもらったお礼の言葉や元気に育っている様子などがかかれています。

わたしのお父さんは病院の「NICU」という所で働いています。日本語では、「新生児集中治りよう室」といいます。そこで、早産で生まれた赤ちゃんや、とても小さく生まれた赤ちゃん、病気をもって生まれてきた赤ちゃんに、点てきをして薬をいれたり、息ができるようにこきゅうをかんだりしたり、けんさをしてしたりしてじょうたいを見守っています。

わたしは、お父さんの仕事はたいへんだと思います。帰ってこない日がいっぱいあったり、家でも仕事をしていたり、家ですぐねてしまうすがたを見ているからです。妹は、小さいころ、お父さんとは一しょに住んでいないと思っていました。お母さんからは、わたしたちが小さいころ、お父さんが全ぜん家にはいないので、育児がとてもたいへんだつたと聞きました。

お父さんは、赤ちゃんと家族がよりよいスタートをされるように手助けをしたいと思いつながら仕事をしているそうです。つかれてしまったときは、もらった手紙をよんで力をもらっているそうです。

お父さんの仕事について、くわしく話を聞いたのは初めてでした。今までは、何となく早く家に帰ってきてほしいと思つていましたが、お父さんの仕事は、人の命をつなぐ大切な仕事なんだと気づきました。そして、手紙を通して、赤ちゃんの家族からも気持ちをつないでもらっているのだと思いました。

わたしもお父さんに「おつかれさま。いつもありがとう。」と手紙をかきたいです。